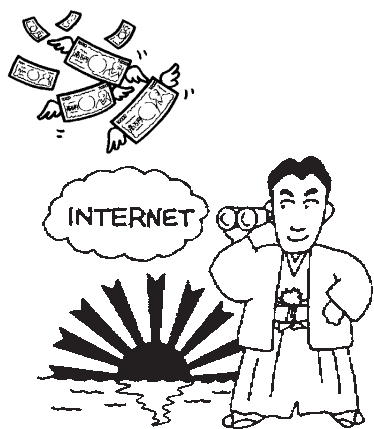


回線はオツケーだが 請求書にびっくり。 次なる目標は 安くてやさしい プロバイダー探検。



第1回 リムネット編



プロバイダー探検に出かける決意をしたのである。

インターネットプロバイダー：インターネットへの接続サービスを提供している会社。

アカウント：ネットワークに接続するための登録。

ID：ネットワークに接続する人を特定するための識別コード。

◎ プロバイダー探検隊発足

謹賀新年インターネット！ というわけで、私が探検隊長の村野でR。

創刊号で開始したISDN探検隊は、第2号で報告したとおり、自宅への回線接続をもって無事終了した。その結果、自宅から快適にインターネットに接続し、モザイク三昧に勤しむことができるようになった...のだが、実は報告し忘れた大変な問題があった。そう。お察しのとおり、私の契約しているインターネットプロバイダーからの請求書である。

最初の月はポチポチの利用だったので大した金額ではなかったが、調子に乗って使いすぎた結果、翌月にはなんと10万円を超える請求が届いてしまったのだあ～、トホホ。これではいかん。なんとかしなくては.....。

最近はビジー（回線がふさがっていつながらない）が増えてきたことでもあるし、自制すべきか、はたまたインターネット料金の日米価格差について抗議文（おいおい、どこへ？）でもしたためようか、と考

えていたところ、「最近、プロバイダーの数も増えてきたし、安いところもあるみたいだから、第二次探検隊つくて“プロバイダー探検”でもやってみない？」という編集部からのリクエストだ。

そういえば、インターネット接続の申し込みなどは編集部“おまかせ”でやってきたわけである。自分のお調子モン加減を棚に上げ、抗議するにはおこがましい点多々あるぞ、と反省。そこで第二次調査としてプロバイダー方面を調べてみよう.....というわけで、今月から本探検隊は「プロバイダー探検」という新たなテーマに突入することになったのであった。

◎ 目標はダイアルアップIP接続

さて、ここでちょっと基本的なおさらいをしておこう。

まずわれわれ（ほぼ自宅ユーザー）がインターネットを利用するためには、インターネットに接続してくれる会社にアカウントを開いて、IDを発行してもらわなければならない。単純なテキストベースの情報

(E-mailやNetNews)やファイル転送(FTP)程度なら、普通のパソコン通信サービスに加入して利用することもできる(ただしメモリ容量の制限がある)。しかし、WWWなど高度なサービスとなると、これは今のところダイレクトにインターネット接続しなければ無理。「インターネットプロバイダー」というインターネット接続専門の業者と契約し、自宅のPCなどをインターネットにつないでもらわなければならない(近々大手のパソコン通信サービス経由でも可能になるという話もある)。

だが、この接続の方法にも何種類がある。たとえば「パソコン通信」みたいな接続、プロバイダーのほうからドカンと情報を送り付けてくれる「UUCP接続」、リアルタイムにインターネット上のほとんどすべての情報にアクセスできる「IP接続」という3つだ。

この中では「IP接続」がもっともゴージャスというか、リアルタイムでリッチな情報のやりとりを体験できるが、これにも2種類のものがある。ユーザーが利用するときだけ回線を接続する「ダイヤルアップIP接続」というのと、常に回線を接続しておく「専用線IP接続」というものだ。

しかし「自宅とプロバイダーの間に専用線を引いて常に接続」というのは非現実的だ(とは言うものの、「月に十数万も払うんだったら、専用線引けばあ〜」と言われてしまったのはこの私だ!)。したがって、ここ当面は「ダイヤルアップIP接続」を目標にプロバイダーへの申し込み手順などを探検だ。

🌀 資料を読んで条件チェック

まず問題になるのは、プロバイダー探しである。ここでは手元の雑誌(もちろん「インターネット・マガジン」ね、へへ)の広告から2つの業者を選んでみた。

1つ目は「BEKKOAME/INTERNET」(電話:03-5610-7900)である。BEKKOAME(へんな名前)ではFAXのポーリング機能を使って案内資料を引き出すことができるらしい(ポーリング受信用

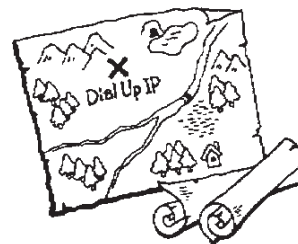
FAX:03-5610-7901)。しかし筆者のFAXにはそんなシャレた機能は付いてないので、電話で資料を請求したところ、なんと14ページ、長さにして4メートルにも及ぶ資料が送られてきた。こんなに大きなファイルなら、同社のやっているパソコンBBS(電話:03-5610-2500)にでもアクセスすればよかった……。

もう1つは株式会社ラピッドシステムズ・インターネット・マーケティング事業部の「RIMNET」(電話:03-5489-5655)である。こちらにもFAXサービス(FAXBOXサービス:03-5489-5567)があるが、資料の枚数は少なくとも4枚程度である。

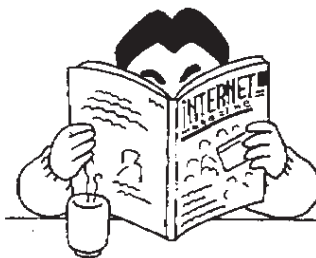
なお、両社ともインターネット経由(BEKKOAME:info@bekkkoame.or.jp、RIMNET:info@rim.or.jp)で資料を請求できる……ん? インターネットに入っていない人がどうやってインターネットで資料請求するの?と思うだろうが、パソコン通信サービスのユーザーがインターネット・メールを使ってのアクセスや、別のプロバイダーを使っている人の乗り換え促進用なのだ。

それはさておき、両者を較べてみるといろいろ興味深い。たとえば資料請求で送ってくる書類にしても、BEKKOAMEのほうはかなり親切丁寧に読み応えがある内容だ。それに無料のパーソナルMosaicページ登録サービスだとか、ユーザーごころをくすぐるものがある。価格もなかなか魅力的だ。しかし残念ながらアクセスポイントが東京・横浜・千葉しかない(INS64では38.4Kbps、一般電話回線では28.8Kbpsまでサポート。近日中午に札幌・仙台・千葉・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・松山・福岡にも拡張される予定)。

これに対してRIMNETの資料はちょっと無愛想。送られてきた4枚のFAXのうち、半分は表紙なので、中身はたったの2枚。また料金設定もBEKKOAMEみたいに単純にはなっていない。だがアクセスポイントのほうは充実してて、「Rapid VAN」という同社の回線網らしきものを使えば全国からアクセスできる。もっとも東京のINS64回線



目標はダイヤルアップIP接続である。



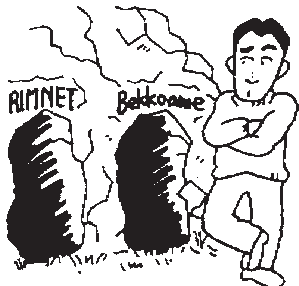
まずは、インターネットマガジンの広告からさがしてみた。

NetNews: インターネット上に流されているニュース。日本語のニュースとしてはjやinnがある。

FTP: File Transfer Protocolの略。インターネット上でファイルを転送するためのプロトコル。

UUCP接続: UNIXシステム間で、おもに公衆回線を使ってファイルを転送するための、UUCPプロトコルによる接続。

IP接続: インターネットで、TCP/IPプロトコルで通信しあえる接続方法のこと。専用線やPPPによる接続がこれにあたる。



RIMNETにするかBEKKOAMEにするか、それが問題だ。



今回は、締切も迫っているので、RIMNETでオンライン・サインアップすることにした。

オンライン・サインアップ：ネットワークでホストに接続して、入会手続きをする方法。

UNIX：ワークステーションで使われているオペレーティング・システムの1つ。

プロンプト：使用者のキー入力を要求するために表示される記号。

は平成7年1月開通予定で、それまでは28.8Kbpsの一般電話回線を利用。また全国11主要都市では9600bps、それ以外の諸都市は2400bpsだから、事実上、回線速度の速いサービスの利用は難しいだろう。

さて料金のほうだが、ダイヤルアップIP接続を考えた場合、BEKKOAMEのほうは「初回登録費用＝1万円」＋「年会費：2万円」……を、これは！つまり最初に3万円払ってしまえば、後は1年間、NTTへの電話料金を気にするだけで大丈夫という太っ腹コンディションだ。

一方のRIMNETは、ちと予算を考えるとが面倒。説明書には「ダイヤルアップIP接続は、セットアップや情報提供をするためのE-Mailアドレスが必要になるためパソコン通信会員からの希望者に限らせていただきます」とある。う～む、これは「IP接続したいんだったら、まずパソコン通信会員になってからね」と言われているようである。そこで「パソコン通信形式」のところを見ると、登録料が3000円。月会費が1800円。これを払った上で「ダイヤルアップIP接続」の料金を追加で支払うとなると、接続料が5000円、月会費が1800円……ということは、つまり初回支払いが8000円で、月会費が3600円？ けど、雑誌広告のほうだと「ホスト利用月会費1800円」と書いてあって、別々に「月会費」が必要とは書いてないな……う～む、これはホストが別々ということなんだろうか？ やっぱ別々に会費が必要なのか？ ……分からん。

さらに、月間の使用時間が7時間30分までは基本月会費でOKだが、それ以上の場合は10円/3分の従量制課金になる。また、「Rapid VAN」を利用した場合には9600bpsで20円/1分、2400bpsで10円/1分の回線利用料金がかかる……なんかこの調子だと表計算プログラムでも必要になっちゃうな～と思ったのだが、BEKKOAMEとちがってココンちにはオンライン・サインアップ（専用アクセス番号：03-5489-1399）というのがある。分からんことも多いので、とりあえず締め切りもあるし、ここにアク

セスしてサインアップしてみよう、というお気軽モードに突入した私であった。

🌀 オンライン・サインアップに挑戦してみる

まずいつもはパソコン通信用に使っている端末ソフトで電話をかける。「login：」プロンプトでお約束どおり「guest」と入力する……と出てきたのが、まるでUNIXの画面である（おかしなことに「You have mail」と言われてしまうが、ここでそれはないよね。漢字コードたいいのパソコン通信の場合はSHIFT-JISだ）を選択すると、回線が途中で切れた場合などの連絡先のメッセージが出てきた後で、

RIMNETの会員規約を表示しますか？

(1：表示する 2：表示しない)：[1]

と聞かれるので、ここは「1」をタイプする（リターンを叩いても「1」があらかじめ入るようになってははず）と、出るわ出るわ。リターンキーを20回近く叩くまで、ズララッと会員規約が表示される。この内容をちゃんと把握しながら画面で読むというのはかなりの無理がある。とりあえずこれはログを取っておいて後で読むことにしよう。

次に出てくるのは料金体系の表示の可否。これも表示してログを取る。これが終わった後で、氏名、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号、会社名（学校名）、クレジットカード番号、有効期限などを尋ねられ、それらが確認のために再表示される（あらかじめカードを手元においておく必要がある。また、ここで誤りがあれば、再度入力作業を繰り返すことができる）。

確認してOKであれば、次にユーザー名を設定する。ユーザー名とは、メールアドレス（たとえば「@impress.co.jp」）の前につく文字列で、使える文字は英小文字で3～8文字である。

次はパスワードの設定だ。

注)使用できる文字列は上記ASCII英数字で8文字以上(英字の大文字と小文字は別の文字として完全に区別されますのでご注意ください。)数字だけのパスワードは使用できません。使用する文字列は他人に類推されにくく、自分で覚えやすいものをご利用下さい。電話番号や氏名、生年月日などを利用することは絶対におやめください

ということなので、あらかじめパスワードをちゃんと考えておいたほうがよい。思い付きで入力してしまうと後で面倒なことになってしまう(経験者=私・談)

ここでパスワードを入力すると、確認のためにもう一度入力を求められ、これが終了した後で、いよいよ「ダイヤルアップIP接続のお申し込み」ということになる。

ダイヤルアップIP接続サービスNetNews、E-Mail、FTP、Telnet等とはとり、WWW(Mosaic)等の最先端のインターネットサービスがご利用いただけます。接続料 5,000円お申し込みされますと、接続設定料5,000円(税別)がかかります。接続設定料はご登録いただいたクレジットカード決済となります。お申し込みいただいた場合、払い戻しはできませんのでご了承下さい。

ダイヤルアップIP接続をお申し込みなさいますか?(1:はい2:いいえ):

この後は、現在自分の使っているコンピュータやモデム、TCP/IPソフト(Macintoshの場合「MacTCP」)やアプリケーション(たとえば「Mozilla」?)の質問だが、「未定の項目がある場合は、空欄で結構です」ということなので、答えられるところだけでOKだ。

これが終わったあと、再度ダイヤルアップIP接続の申し込みの確認を求められ、ここで「はい」であれば

御指定のクレジット口座より・登録料3000円(税別)・ダイヤルアップIP接続料5000円(税別)合計8000円(消費税別)が引き落とされ

ます。

ということになる。ここでまた念入りなサインアップの確認(これがホントにホントの最後の確認)があり、これが終わると

オンラインサインアップが終了しました。

ユーザーIDの作成に2時間程、時間がかかります。その後、ご登録いただいたIDとパスワードで以下のNTT回線もしくはRapid VANよりログイン可能となります。

リムネット事務局から後日確認の郵送等は致しませんのでご了承下さい。

ということになる。この後、通常アクセス用電話番号2つとダイヤルアップIP接続専用番号1つ、Rapid VANの最寄りのアクセス番号や接続の方法(通信速度に応じて接続後の文字入力が異なる)などの説明が続いた後……

注意:ログインする前に通信ソフトの設定をご確認ください。

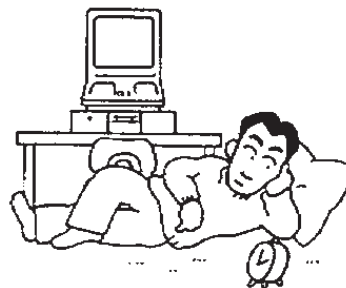
画面制御:VT100漢字方式:シフトJIS(PC系):EUC(WS系)リターンコード:送信CR/受信CR+LF

*VT100互換の通信ソフトをお持ちでない方は、後日ネットワークからダウンロードしていただけるように致します。Macintoshユーザーの方は等幅明朝をご利用ください。

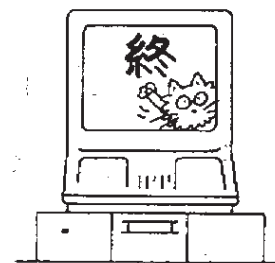
ありがとうございました。(一旦接続を切ってください)

……ということでオンライン・サインアップは終了したのである。

ひえ～、これでおしまい? うっそー……というのがその時の筆者の正直な感想であった。



2時間ほど待ってユーザーIDが登録され、使えるようになる。



えっ、もうこれでおしまいなの??

MacTCP: MacintoshをインターネットやLANに接続するためのソフト。

VT100: DEC社(Digital Equipment Corporation)の端末のこと。この端末の制御方法(エスケープシーケンス)がデファクトスタンダードになり、UNIXではこの方式を採用している場合が多い。このため、多くの端末ソフト(通信ソフト)でVT100と互換性のあるモードを持っている。

シフトJIS: パソコンで使われている漢字コード体系。

EUC: UNIXのワークステーションで使われている漢字コード体系の1つ。

等幅明朝: Macintoshで使われているフォントの名前の1つ。欧文の文字幅が一定。



プロバイダー探検の道は、かくもきびしいものなのだろうか？



あんな、UNIXの常識くらい知らんと、無理でっせ。

IPアドレス：TCP/IPプロトコルを使用するホストに割り当てられる32ビットのアドレス。

DNS：ホスト名を入力するとIPアドレスを返すシステム。

ComNifty：NIFTY-Serveに接続するための専用の通信ソフト。

茄子：NIFTY-Serve専用のログ管理ソフト。

Eudora-J：Macintoshで使用する電子メールソフト。

NewsWatcher、NewsAgent：Macintoshで使用するネットニュースリーダー。

シェル形式：UNIXのコマンドプロセッサであるシェル（C-ShellやB-Shell）のインターフェイスで、コマンドを入力して操作する方式。UNIXの操作になれている人であれば、こちらの方が使い易い。

⑨ サインアップしたのはいいけど

ダイヤルアップIP接続するには「IPアドレス」と「DNS」を「MacTCP」に入力しなきゃ駄目でしょ？ それなしで、どうやってダイヤルアップIP接続なんかしろっていうんだよ～、ったく。でもって「リムネット事務局から後日確認の郵送等は致しませんのでご了承下さい」って、つまりマニュアルも手引きも何もなしっていうことでしょ？まったくのゲゲンゲ状態である。

う～ん、こんなのってありかあ？ と思ったが、「これは“探検”である！」と気を取り直し、しかたないから数時間、ID登録が終わるのを待つことにした。その間にやっておくべきは、さっき読み飛ばした「リムネット・インターネット接続サービス利用規約」というやつである。

取ってあったログをスクロールしてみると、どうやらRIMNETではあくまでも基本は「パソコン通信形式サービス」であるらしいことが分かる。それによると.....

本サービスの目的は、パソコン通信形式のインターネット利用ガイダンスを受けながら、簡単なUNIXコマンドをマスターしていただき、E-MAIL、NETNEWSの読み書き、FTP、TELNETといったインターネットのサービスがご利用いただく接続形態

会員間でのインターネット体験やQ&Aニュースグループによる会員相互の情報交換などもご利用いただけます。また、UUCP接続サービスダイヤルアップIP接続サービス等の上位サービスへの移行、移行後の会員の円滑利用を目的としたリムネット事務局とのサポートラインとしてもご利用頂きます

.....とのこと。

これは要するに、「UNIXの常識くらい知らないでダイヤルアップIP接続なんか、無理でっせ」(突然関西風)、「初心者向けのマニュアルはないから、こちらからの情報

を読んだり、適当に会員同士で情報交換してね」ということ？

そりゃ～確かにUNIXのターミナルモードっつーのは基本かもしれないけど、今どきそんなのありい？ パソ通だって「ComNifty」と「茄子」の時代でしょ？ 「Eudora-J」とか、「NewsWatcher」「NewsAgent」ってものがインターネット・マガジンのCD-ROMにも付いてくるぞ。なんか時代が違うような.....とは考えたが、ま、乗りかかったフネである。ともかく端末ソフトをVT100モードに切り替えて、先ほど指定された電話番号にかけてみる。

⑩ モード切り替えで大苦勞

モデムの相性が悪いのか、何度か文字化けでログインできなかったのでボーレートで2400にまで落として接続する。と、画面に「メニュー形式」と「シェル形式」の選択がある。まずは「メニュー」を選択すると、出てきたのは“いつか見たVT100”の画面だった。

実は私はこの手の画面は嫌いなのだ。常時接続ならともかく、とても課金を気にしながら使う気にはなれない(しかも2400!)。第一、手持ちの普通のパソコン通信ソフトでは気軽にログも取れない。

ところで、ログインした時「You have mail」と出ていることを思い出し、これを読もうと思うが、どうもこの画面では.....と考えて「シェル」に移ることにする。ううむ、考えてみればUNIXの環境を離れてはや数年。ここでこんなものに出くわすとは.....と感慨(?)もひとしおだが、正直な話、まともにUNIXをお勉強したことのない私だ(威張ることはない)。

ではメールでも読んでみよう.....とコマンドを入れると、システム側から2通メールが来ている。これはきつと大事なメールに違いない。と思って、そのうち1通を読もうとすると、な、なんと文字がぐちゃぐちゃ。いったいこれは.....? こういふときって漢字モードの.....、す、すっかり忘れてる。

焦っても無駄なので、とりあえず勝手に名前を付けてセーブしておくことにする(後から考えれば、ここで端末ソフトの側を「EUC」に設定すればよかったのだ)。

あ~あ、とんでもないとこにハマっちゃったな、と考えながら、今度は「メニュー」側からもう1通のメールを読む。と、ちゃんと読むことができた。中身は「RIMNETの利用の手引き」とも言うべきものである。ダイヤルアップIP接続に必要なIPアドレスや、その他のサーバーの名前もちゃんと書いてある。これを消しては大変だ。が、どうやって保存しておくかは大問題だ。「:」で「s」でも入れて適当なファイル名を付ければ大丈夫とは思うが、どうも不安。結局、手作業で別のファイルにカット&ペーストするという保険をかける。ああ、情けない。

「Q&A」でも読んで態勢を立て直そうと思っいるいろいろ覗いてみると実に初心者的な質問と答えが書いてある。「な、なんて涙ぐましい努力だ」と頭が下がるが、その中に「漢字コードは何を使えばいいですか」という、「おいおい、ここまで来てそんな質問はないだろう」的Q&Aがあった。

A.メニュー形式モードは、デフォルトがSJISでEUCはご利用いただけません。また、シェルモードは、デフォルトはEUCですが、ホスト名%の後に、「setterm -x SJIS」と入力することで、SJISに変換が可能です。

おいおい、これくらい前もってどっかに書いておいてくれよ。これじゃ、パソコンをやった程度の人間には、さっぱりワケが分かんよ。「質問電話やFAXは受け付けません。ボードをお願いします」というし.....なんだかねえ。

その後、システム側のお知らせやユーザー同士のメッセージを読んでみたが、どうやらここはすでにUNIXを知っている人向けの場所ようだ。初心者の人を面倒を見てくれている親切な人もいるが、なんだかこのままではダイヤルアップIP接続まで、先は長いような気がする。

よ~し、どうやらここは私のようなノー

テンキな人間には向いてない。もちっとお気楽極楽にダイヤルアップIP接続のできる場所を探そう! じゃ、次、BEKKOAME、行ってみよ~。

◎ 初心者向け新サービス開始?!

それにしても、どうしてこうUNIXを知ってる人ってのはシステム側に対して物分かりがいいのかねえ。苦勞を知ってるからだろうか? けど、これから「インターネットって面白いかも」なんつー軽い気分で入ってくるユーザー(私のことだ!)は、そんなことは知らないだろう。「金を払った限りは.....」という世間一般気分でやってくるに違いない。そうなった時、どんなことが起こるのか.....ふ、ふあん。

が、しかあ~し、12月15日の新聞に「インターネット接続・個人向けに設定代行・ラビッドシステム開始」という記事を見つけてしまった。それによると.....

パソコンとモデム(変復調装置)を同社に持ち込むと約一週間後にインターネットに接続できる状態に設定して利用者に返送する。あらかじめインターネットに接続できる状態に設定したパソコンとモデムも発売する。

設定代行サービスは郵送でも受け付け、同社に到着後六営業日以内に整備して返送する。料金は配送費・消費税を除き五万円

.....ということである(以上、日経産業新聞による)。

う~む、こういう手を考えていたのか...知らなかった.....。けど5万円はどおかね?

しかしそのうち、アキバあたりに「お客さん、パソコン買ったね。うち、インターネットの設定安いよ?」という客引きが出てくるかも? なんてことを考えてしまう私であった。



パソコンをやった程度の人間には、ちと、てごわすぎる。



そのうち、アキバあたりにこんな客引きが出てくるかも?



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp